令和４年度　多摩市立多摩第一小学校　　授業改善推進プラン　　教科名

理科

|  |  |
| --- | --- |
| 理科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて | |
| **ア　知識及び技能** | **イ　思考力、判断力、表現力等** |
| ・根拠のある予想を立て、それを確かめるための実験の方法や条件を発想すること | ・実験の結果を整理し、その結果を基に結論を導き出す力 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 児童・生徒の学力の状況（課題） | 授業における具体的な手だて | 手だての実施時期 | 成果検証（２月） |
| 第３学年 | ・自分なりの予想を立てることはできるが、経験を根拠にして予想することや、実証するための方法を考えることに課題がある。ア  ・実験の結果から分かることを考えることが難しい。イ | ・普段から自然に親しみ、事象を丁寧に観察することを心がけ、見たことや知っていること、既習事項から予想させる。  ・身近な自然事象や知っている事柄などを想起させる時間を確保し、その後、差異点や共通点を基に考えるようにする。 | 毎単元 |  |
| 第４学年 | ・既有経験や既習事項から根拠をもって予想を立てることに戸惑っている児童がいる。ア  ・実験の結果をまとめることはできるようになってきたが、考察を文章に表すことが苦手な児童がいる。イ | ・予想を立てる際に、既有経験や既習事項から、自分で考えてノートに書く習慣を付ける。根拠のある予想を基に話し合いをして友達の考えも取り入れる。  ・実験結果を全体で確認した後に、考察の時間を確保する。実験結果を考察し、文章で表現させる。 | 毎単元 |  |
| 第５学年 | ・実験の予想を考えることはできるが、根拠を明確に示すことに課題がある。ア  ・実験や観察の結果から、自分で考察して考えることが苦手で、教科書の結論に結び付けてしまう。イ | ・課題発見から予想まで時間を十分に確保し、今までの既有経験や既習事項との関連を話し合う時間をとる。  ・学習活動の中に、自分で考察する時間を確保し、予想と比べながら結果から言えることを話し合い、文章にまとめさせる。 | 毎単元 |  |
| 第６学年 | ・検証したい事柄に応じて、変える条件と同一にする条件を正しく考える力が不足している。ア  ・考察に実験の結果のみを書き、結果から問題に対する考察を話し合い、結論を導き出すことが難しい。イ | ・実験方法を考える学習の時間を十分に確保し、実験方法の妥当性を吟味する時間を保障する。  ・事実と解釈（結果から分かったこと）を書かせてから問題を意識した話し合いを行わせ、より妥当な考えをつくりだすという学習の流れを定着させる。 | 毎単元 |  |

|  |  |
| --- | --- |
| **■**「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等ICTの効果的な活用について  ３年　写真や動画機能を用いて、時系列に沿って記録をまとめる。  ４年　自分たちで収集した画像や映像を基に、実験結果について考察をする。  ５年　記録した情報を分類・整理して自分なりに考察する。  ６年　実験結果を撮影し、記録した情報を分類・整理して実験方法の妥当性をグループで吟味する。 | ■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学び  に向かう力」の育成に向けた取組について  全学年　学習の見通しをもたせるために、問題・予想・実験・結果・考察・結論の学習サイクルを学校で統一する。 単元末に学習問題について学んだことをふり返ったり、 自然事象と結び付けて考えたりする時間を設定する。 |